

---

# そうだ！ 常夏にしよう

カズト

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

そうだ！ 常夏にしよう

### 【Zコード】

N8467B

### 【作者名】

カズト

### 【あらすじ】

今日も今日までのんびり過ごしていた樹雨とクロ。しかし、樹雨がとんでもないことを言い出して 生活能力皆無の銀髪魔女、相棒は黒猫、得物は龍木の杖、たとえ生活に困窮しても日々を楽しく生きていたい がモットーの現代の魔女、短編シリーズ！

「わうだ。常夏にしてみつー。」

『脳味噌にウジでもわいたか、主

今日も今日とてひとつの魔女（生活不適合者）と一匹の黒猫はオ  
ンボロアパートのやびつと休日を過ごしてきました。テレパシスト

わうだ。常夏にしてみつー。

「さて、世界を常夏にしてみつ計画にてて議論を開始しようか。  
『議論以前の問題だうづ。そんなイカレた思考回路はドブ川にでも  
捨ててこー』

「うへん、術式がめんどいだしな。わうこのの、

思考回路はドブ川に捨てられるのでしょうか。ま、それはさてお  
き、とあるアパートの一室で氣まぐれな魔女の発言が物議を呼んで  
いました。

『じゃあ、いよおひ闇にひつか。どうしてそんなクレイジーな考えに  
至ったのかを』

「だつてさ。今、寒いじやんか、春も迫るうかといつのに雪とか降  
つててさ。桜も満開に咲いてたのに。だから、海水浴でもして気分  
を紛らわそつかと」

『なら、今すぐ寒中水泳やつてこい。たつたそれだけでこの世界は  
救われる』

『いや、こへら魔女でも寒いもんは寒いぞ』

『それぐらい我慢しろ。だいたい地球温暖化が叫ばれているこの時代の時勢。なぜ主はその結論に達した』

「いや、三十年ぶりに水着でも着てさ。泳げつかなって。実にシンプルで純粋、ピュアな考え方じゃないか」

『そのシンプルで純粋でピュアな考え方とやらで、永久凍土の氷を溶かす気が、海面を何ミリ上昇させる気だ』

「そんな大げさな」

『主の悪魔の所業を見てきたオレが言つんだ。間違いない』

～そうだ。ビッグウェーブでサーフィンしよう～

この気まぐれな一言により地球は未曾有の危機に瀕しそうとした。具体的には局地的な大津波、海水を巻き上げる竜巻 etc . e t c .

『あの時はすんでのところで未遂に終わつたが、主の存在は核ミサイル百発分より危険なんだと実感したぞ』

「そうだつたつけ？」

『だからこそ、そういう馬鹿げた行動は自重すべきだ』

「でもなあ、寒いし」

銀色の髪をくしゃくしゃとかいて窓の外をながめる樹雨。

壁の薄いボロアパートでは冷たい風がダイレクトにやつてきます。ま、常夏にしたらして蒸し暑くてやつてられないでしちうが。

『主よ、冷静に考える。ここはハワイのような南国ではない。高温多湿の日本で常夏にすれば確実に死ねるぞ』

「そういえばそうか。なら、湿度を微調整して」

『ああ、いらん知恵を与えた。つーか、主よ、あなたの微調整は信用ならん。あなたの感覚は凶悪にアバウトだ』

クロの脳裏には湿度がバカみたいに下がって温度がバカみたいに上がる光景が鮮明に浮かび上りました。

『だいいちどいつやって常夏にするんだ。気温を上昇させる魔法はあるにはあるが、地球全土に影響を与えるにはとてもなく膨大な魔力と術式が……』

「だから、手つ取り早く『太陽』でも持つてこようかなって。圧縮魔法と転移魔法を組み合わせて」

『……ハ?』

太陽というのはひょっとしてあの太陽でしょうか。クロナやら黒点やらのあの太陽でしょうか。ひょっとして樹雨はバカなのでしょうか。

ようやく現世に復帰したクロは樹雨に叫びます。切実に。

『あなたは地球を滅ぼす気が!? 太陽系になにか恨みでもあるのか!?!』

「強いていうなら知的好奇心」

『このマジックサイエンティストが!』

樹雨は指をふり「チツチツチツ」とわざとひじく言いました。

「現代の魔女体系は科学者と共通する面があるんだぞ。だから

『んなこた、どうだつていい!』

「うわ、怒鳴るなよ」

樹雨は遮断結界でクロの怒声をシャットアウトします。そして、  
すぐに解除。  
テレパシー

「けどさ、前人未到の領域に踏み込んでみたいと思つのは魔女として当然の欲求で」

『そのために世界中の動植物を犠牲にするな！　百歩譲つて常夏にするなら迷惑をかけない方法を使え』

「迷惑をかけない方法？」

『お得意の亜空間魔法に決まってるだろ。大事に育てたゲテモノ植物といつしょに永久に常夏を満喫すればいい』

クロを補足すると亜空間魔法とは樹雨が作り出した別の世界のこと、ゲテモノ家庭菜園とは樹雨が趣味で作った魔界植物の菜園のことです。

ちなみに菜園の植物はたまに人食います、根っこが人面で引っこん抜くと死にます、天高くそびえる豆の木がありま　どんな菜園だ。

「でもなあ。あいつら油断してると私を食いつんだよ。この前なんか植物の胃袋で目を見ましたし」

植物に胃袋、油断していると食われる　どんな人外魔境でしょうか。

『……話がそれた。地球常夏化の話にもどるが』

「あ、そうだつた」

『常夏にして主になんのメリットがある。主はスキーも好きじゃないか。デメリットしか感じないぞ』

「けど、年中かき氷やら花火やらが見れるぞ。食料品の消費率は上がる。夏の風物詩を満喫できる。ほら、十分メリットがあるじゃないか』

『しかし、真冬に商売する人は困るだろ。動植物や昆虫も同義だ。生態系がひっくり返るぞ』

「じゃあ、この部屋だけ常夏にしよう。これで解決」

『主よ、もし正氣なら』『馬と鹿』といつ文字を虚空に書き連ねる。奇跡が起きればバカが直るかもしれん』

「えつと、馬と鹿、馬と鹿、馬と鹿……私はやつぱりネコの方が好きだな。クロ』

そう言つてにっこりと微笑む樹雨。

天地がひっくり返らないかぎり彼女のバカは直らないかもしません。マジド。

『よし、もういちど冷静になつて考えるぞ。たしかにあなたは魔王と肩を並べ、精靈王との間に子を身籠り、魔女の王を滅ぼした全世界見ても非常に稀有な存在だ。さらに龍族の象徴たる紅蓮樹から削り出した杖、龍木の杖に選ばれた者。どれだけ料理含め家事全般の能力が欠けていても立派に世界最強の魔女だ』

「けなされてるのか褒められてるのか、実に微妙だな」

『ともかく、軽率な行動は自重すべきだ。つーか日々の生活を摂生しき。あんた便秘で悩んでただろ。いきなり部屋を常夏にしたら体調崩すぞ』

「言つなよ。恥ずかしいな」

『あんたはまず日頃の生活を恥じるべきだ。それに主よ。魔界の双王たる『魔王』や『精靈王』もあんたには大人しくしていてほしいと言つている。特に精靈王は切実だつたぞ、あのお方の息子、つーかあんたの息子が地上にいるから天変地異は勘弁してくれつて』

『あいつめ

樹雨はこぶしを握り締めて、『ガン』と食器棚を殴ります。

クロは慣れた様子でひょいひょいと落ちた食器を受け止めました。さすがネコとはいえ使い魔のクロ。

こんな感じで使い魔の運動能力を發揮するのはいささか憐れみを覚えますが……

「まあ、そこまで言つない。とりあえず部屋だけ常夏にしてみるか」「根本的な解決になつてない気がするが」

樹雨は虚空に術式を刻みました。

一週間後……

「わわわああああああああ

ボロアパートの一室からその絶叫は轟きました。

「！」ゴキブリが、ゴキブリが出やがった！－

外は春の訪れを告げる桜が満開。中は夏の訪れであるゴキブリが  
「じゅじゅじゅ。

『あ、あんた。世界最強の魔女だらー。ゴキブリヒトモレビヒルな  
ー。』

「私の唯一無二の天敵なんだ！」

どたんばたんと部屋の中は大混乱。  
錯乱氣味の樹雨、うでを爪で切つて滴り落ちた血を使い、虚空に  
血文字で術式を刻みます。  
刻まれた文字は 紅爪の凶炎<sup>カラクンドラ</sup>

「我、大罪の魔女が命ずる 以下略」

樹雨は高速呪文を詠唱し、省略術式を虚空に刻みます。

いつもと様子がちがい、樹雨の足元に真紅の魔法陣が現われ、うつすらとなにかの影が現われます。

こんな適当な魔術式でこれほど高位の精靈召喚があっさりと発現しました。

『わ、バカッ！　ここで四精靈魔法を使つなー。』

クロの静止も樹雨はシカトして、

「王權發動・赤き血流の蜥蜴」サラマンドラー

数匹の『キブリを葬るために発言させたのは、かの魔女の王、金色の破壊者に致命傷を『えた四精靈魔法のひとつ。 赤き血流の蜥蜴。

燃え盛る紅蓮の大蜥蜴。 四精靈のサラマンドラーが魔法陣を介して召喚されます。

無論、たかがオンボロアパートの一室。

一瞬でなにもかも消し飛んだのは言つまでもありませんでした。

暑いのは嫌だけど、サラマンドラーの凶炎はもつともばかかったとさ。

おわり

(後書き)

この小説の「意見」「感想をお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8467b/>

---

そうだ！ 常夏にしよう

2010年12月11日03時07分発行